



# 令和3年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 研究支援賞の募集について



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

**募集期間： 令和2年5月29日(金)～7月22日(水)**

研究支援賞は、科学技術の発展や研究開発の成果創出に向けて、高度で専門的な技術的貢献を通じて研究開発の推進に寄与する活動を行った者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とし、令和2年度より創設された表彰制度です。

## 研究支援賞の対象

科学技術の発展や研究開発の成果創出に向けて、高度で専門的な技術的貢献を通じて研究開発の推進に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる者

- \*「高度で専門的な技術的貢献」
  - ・研究施設・設備・機器の運用、管理、利用支援並びに実験データの測定・処理・分析に及び研究試料の加工等に係る新たな技術の開発または実施
- \*「研究開発の推進に寄与する活動」
  - ・研究者と共同で課題解決を図る活動や研究開発の推進をサポートする活動
  - 高度で専門的な技術・知見の継承や技術の向上を図るための活動(講習会やセミナー等)

業績の表彰対象には、研究を支援するための技術開発又は、活動を行った者のみならず、所属機関における組織的な制度改善や体制構築等の取組が、活動の実施に当たって重要な貢献をした場合において、こうした取組を行った者を含む。

## 募集・選定スケジュール

現在、審査中

令和2年5月29日  
募集開始  
推薦機関へ依頼

令和2年7月22日  
募集締切

審査

令和3年4月上旬  
受賞者の公表・表彰

## 想定される業績の例(イメージ)

技術職員等が研究者と協働し、研究設備等による測定・分析手法を開発・改良して測定精度の向上等を達成し、新たな研究成果の創出に貢献した

複雑で様々な技術的課題が存在する研究課題に対して、様々な専門性を持つ技術職員等がグループで対応し、研究成果の創出に貢献した

研究機関における研究施設・設備・機器等の運用・管理や利用者への技術的支援、講習会やセミナー等を通じた技術の向上等において主導的な役割を果たし、効果的・効率的な研究環境の構築に貢献した



< 第1回 受賞者の受賞概要 >

URLにアクセス

[https://www.mext.go.jp/content/20200522-mxt\\_sinkou02-000007424\\_30.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200522-mxt_sinkou02-000007424_30.pdf)

# 令和2年度 研究支援賞 受賞者一覧

業績名		氏名（所属・役職） 敬称略。グループの場合、筆頭者のみ記載。
1	大強度陽子ビームの遅い取り出し実現と高品位化への貢献	新垣 良次（高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設加速器第二研究系 専門技師）他1名
2	生細胞微弱光観察技術支援と共用顕微鏡運用体制構築への貢献	石館 文善（京都大学高等研究院物質 - 細胞統合システム拠点 特任教授）
3	大型極低温システム建設運用によるニュートリノ実験への貢献	大畠 洋克（高エネルギー加速器研究機構共通基盤研究施設超伝導低温工学センター 技師）
4	受託分析サービスを通じた大学研究力向上への貢献	岡 征子（北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター機器分析受託部門長 技術専門職員）他3名
5	パルス強磁場開発への技術的貢献	川口 孝志（東京大学物性研究所 技術専門員）他2名
6	内容不明実験廃棄物の分析処理技術の構築と水平展開への貢献	栄 慎也（東京大学工学部・工学系研究科技術専門員）他3名
7	温度分析制御マクロリアクタによる反応動力学研究への貢献	手塚 卓也（東北大学総合技術部 技術専門職員）
8	基盤技術としての透過電子顕微鏡による材料科学研究への貢献	東嶺 孝一（北陸先端科学技術大学院大学 ナノマテリアルテクノロジーセンター 技術専門員）
9	X線回折法を用いた物質開発および人材育成支援に対する貢献	松下 能孝（物質・材料研究機構 材料分析ステーション化学分析・X線回折グループ グループリーダー）
10	共用クリーンルームの運営と技術開発による先端研究への貢献	松谷 晃宏（東京工業大学オープンファシリティセンター マイクロプロセス部門長 / 主任技術専門員）



# 科学技術・イノベーション基本計画について(答申素案)(概要)

(首相官邸HPより)  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tougou-innovation/dai8/gijisidai.html>

## 現状認識

### 国内外における情勢変化

- 世界秩序の再編の始まりと、科学技術・イノベーションを中核とする国家間の覇権争いの激化
- 気候危機などグローバル・アジェンダの脅威の現実化
- ITプラットフォームによる情報独占と、巨大な富の偏在化

### 新型コロナウイルス感染症の拡大

- 国際社会の大きな変化
  - 感染拡大防止と経済活動維持のためのスピード感のある社会変革
  - サプライチェーン寸断が迫る各国経済の持続性と強靱性の見直し
- 激変する国内生活
  - テレワークやオンライン教育をはじめ、新しい生活様式への変化

### 科学技術・イノベーション政策の振り返り

- 目的化したデジタル化と相対的な研究力の低下
  - デジタル化は既存の業務の効率化が中心、その本来の力が未活用
  - 論文に関する国際的地位の低下傾向や激しい研究環境が継続
- 科学技術基本法の改正
  - 科学技術・イノベーション政策は、自然科学と人文・社会科学を融合した「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資するものへ

「グローバル課題への対応」と「国内の社会構造の改革」の両立が不可欠

加速

## 我が国が目指すべき社会(Society 5.0)

### 国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会

#### 【持続可能性の確保】

- SDGsの達成を見据えた**持続可能な地球環境**の実現
- 現代のニーズを満たし、**将来の世代が豊かに生きていける社会**の実現

#### 【強靱性の確保】

- 災害や感染症、サイバーテロ、厳しさを増す安全保障環境、サプライチェーン寸断等の脅威に対する**総合的な安全保障**の実現

### 一人ひとりの多様な幸せ(well-being)が実現できる社会

#### 【経済的な豊かさとの質的な豊かさの実現】

- 誰もが**能力を伸ばし**、それを活かした**多様な働き方を可能**とする教育・労働・雇用環境の実現
- 人生100年時代に**生涯にわたり健康で社会参加**し続けられる環境の実現
- 人々が夢を持ち続け、コミュニティにおける**自らの存在を常に肯定し活躍**できる社会の実現

この社会像に「信頼」や「分かち合い」という**我が国の伝統的価値観**を組み込み、**Society 5.0**として世界に発信 **国際社会に貢献し、世界の**人材と投資**を呼び込む**

### Society 5.0の実現に必要なもの

サイバー空間とフィジカル空間の融合による**持続可能で強靱な社会への変革**

新たな社会を設計し、**価値創造の源泉となる「知」の創造**

新たな社会を支える**人材の育成**

「社会変革」を断行するとともに、その先を見据えた「**未来への投資(知と人材)**」を推進

## Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

- **総合知**や**エビデンス**を活用しつつ、未来像からの「**バックキャスト**」と現状からの「**フォーキャスト**」に基づき政策を立案し、評価を通じて機動的に改善
- 5年間で、政府の研究開発投資の総額 **約30兆円**、官民合わせた研究開発投資の総額 **約120兆円** を目指す

### 国民の安全と安心を確保する**持続可能で強靱な社会**への変革

- (1) **サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出**
  - ・ 政府のデジタル化、デジタル庁の発足、データ戦略の完遂(ベースレジストリ整備等)
  - ・ Beyond 5G、スパコン、宇宙システム、量子技術、半導体等の次世代インフラ・技術の整備・開発
- (2) **地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続なイノベーションの推進**
  - ・ 革新的環境イノベーション技術の研究開発(基金活用等)・低コスト化、循環経済への移行
- (3) **レジリエントで安全・安心な社会の構築**
  - ・ 脅威に対応するための重要技術の特定と研究開発、社会実装及び流出対策の推進
- (4) **価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成**
  - ・ SBIR制度やアントレ教育の推進、スタートアップ拠点都市形成、産学官共創システムの強化
- (5) **次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり(スマートシティの展開)**
  - ・ スマートシティ・スーパーシティの創出、官民連携プラットフォームによる全国展開、万博での国際展開
- (6) **様々な社会課題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用**
  - ・ 総合知の活用による社会実装、エビデンスに基づく国家戦略\*の見直し、策定と研究開発等の推進
  - ・ SIPやムーンショット等の推進、知財・標準の活用等による市場獲得、科学技術外交の推進

\*AI技術、バイオテクノロジー、量子技術、マテリアル、宇宙、海洋、環境エネルギー、健康・医療、食料・農林水産業等

### 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる**研究力の強化**

- (1) **多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築**
  - ・ 博士課程学生の処遇向上とキャリアパスの拡大、若手研究者ポストの確保
  - ・ 女性研究者の活躍促進、基礎研究・学術研究の振興、国際共同研究・国際頭脳循環の推進
  - ・ 人文・社会科学の振興と総合知の創出(ファンディング強化、人文・社会科学のDX)
- (2) **新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)**
  - ・ 研究データの管理・利活用、スマートラボ・AI等を活用した研究の加速
  - ・ 研究施設・設備・機器の整備・共用、研究DXが開拓する新しい研究コミュニティ・環境の醸成
- (3) **大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張**
  - ・ 多様で個性的な大学群の形成(真の経営体への転換、世界に伍する研究大学の更なる成長)
  - ・ 10兆円規模の大学ファンドの創設

### 一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する**教育・人材育成**

**探究力と学び続ける姿勢**を強化する**教育・人材育成システム**への転換

- ・ 初等中等教育段階からのSTEAM教育やGIGAスクール構想の推進、教師の負担軽減
- ・ 大学等における多様なカリキュラムやプログラムの提供、リカレント教育を促進する環境・文化の醸成

社会からの要請  
知と人材の投入



“技術職員”に関する記載

第2章 Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

2. 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

(1) 多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築 P46-

(b) あるべき姿とその実現に向けた方向性

… まず、博士課程学生の環境の改善を図り、若手研究者がアカデミアのみならず産業界等の幅広い領域で活躍できるキャリアパスの展望を描けるようにすることで、優秀な若者が博士課程を志す環境を実現する。さらに、多様で卓越した知を生み出す基礎研究・学術研究の振興とともに、研究者が腰を据えて研究に専念しながら、多様な主体との知の交流を通じ、独創的な成果を創出する創発的な研究の推進を強化していく。こうしたことにより、我が国の研究力強化と研究環境の向上が達成され、研究者の魅力も更に増すという好循環を創出していく。…

(c) 具体的な取組

大学等において若手研究者が活躍できる環境の整備  
研究時間の確保

URA等のマネジメント人材、**エンジニア（大学等におけるあらゆる分野の研究をサポートする技術職員を含む）**といった高度な専門職人材等が一体となったチーム型研究体制を構築すべく、**これらが魅力的な職となるよう、専門職としての質の担保と処遇の改善に関する取組を2021年度中に実施**する。これにより、博士人材を含めて、専門職人材の流動性、キャリアパスの充実を実現し、あわせて、育成・確保を行う。【文】

（首相官邸HPより） <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tougou-innovation/dai8/gijisidai.html>

第6期科学技術・イノベーション基本計画」答申素案  
パブリックコメント募集中！！（2月10日まで）